

# 目 次

会長挨拶 .....	2
日本スキー学会第 27 回大会 日程 .....	3
日本スキー学会第 27 回大会 組織図 .....	4
日本スキー学会第 27 回大会 ご案内 .....	5
発表者の方へのご案内 .....	7
プレセミナー .....	8
基調講演 .....	10
シンポジウム .....	11
ワークショップ .....	16
研究発表プログラム .....	17
講演論文集 .....	20
講演論文集原稿 執筆要要領 .....	82

## ご挨拶



日本スキー学会会長  
新井 博

日本スキー学会第27大会は、「スノースポーツにおける科学の役割～科学の現場への応用について考える～」をメインテーマに、キロロトリビュートポートフォリオホテル北海道/キロロリゾートを会場として開催されます。

今大会の企画や会場設営等に尽力された大会実行委員長の廣瀬 圭（秋田大学）先生をはじめとする他の皆様に対して、心より御礼申し上げます。廣瀬委員長は「選手が高いパフォーマンスを発揮するために、スポーツ科学の必要性・重要性についても関心が高まっており、選手に対してどのようにフィードバックできるのかについて模索されています・・・〈略〉・・・今後のスノースポーツの発展にどのようなスノースポーツの科学的研究が必要なのか、スノースポーツの科学は現場に対してどのような役割を担えるのかについて本大会で皆様と考えて参りたい」と抱負を述べています。

大会第1日目は、大会行事として定着しましたプレセミナーが、医学系のテーマのもとで開催されます。第2日目は、秋田大学の前日本スキー学会会長である土岐 仁氏による基調講演がおこなわれ、その後「スノースポーツにおける科学の役割」についてスノースポーツ現場の最前線でご活躍されている宮本 直人（東北大学）・中里 浩介（国立スポーツ科学センター）・近藤 亜希子氏（秋田大学）各先生方を招きシンポジウムが行われます。第3日目は、午前中会員諸氏の研究発表。午後からワークショップ1「トップスキーヤー講習」講師：輪島 千恵氏（元 SAJ ナショナルデモンストレーター）・ワークショップ2「ゲレンデ巡り」講師：近藤 雄一郎氏（北翔大学スキー部コーチ）・ワークショップ3「スノーボード」講師：伏見 知何子氏（Area51s）・ワークショップ4「スキーの計測体験（GPS、フォースプレートによる計測）」講師：宮本 直人氏（東北大学）・中里 浩介（国立スポーツ科学センター）が用意されております。第4日目は会員諸氏による研究発表が行われます。キロロスキー場の売り物は、極上のパウダースノーを味わえることです。雄大な自然環境の中で、スキー研究とスキーの魅力を味わいましょう。大会で皆様とお目にかかれることを楽しみにしております。

# 日本スキー学会 第27回大会日程

## 第1日 3月12日(日)

16:30～ 受付 会場:ライラック  
17:00～19:00 プレセミナー

## 第2日 3月13日(月)

11:00～12:00 理事会 会場:アルパインブラッセリー  
12:15～ 受付  
13:00～13:15 開会式 会場:ライラック  
13:15～14:15 基調講演 一般公開(無料)  
14:30～16:30 シンポジウム 一般公開(無料)  
17:00～17:30 評議員会 会場:ライラック  
18:00～20:00 懇親会 会場:ハマナス  
20:00～22:00 フレンドシップサロン 会場:スズラン

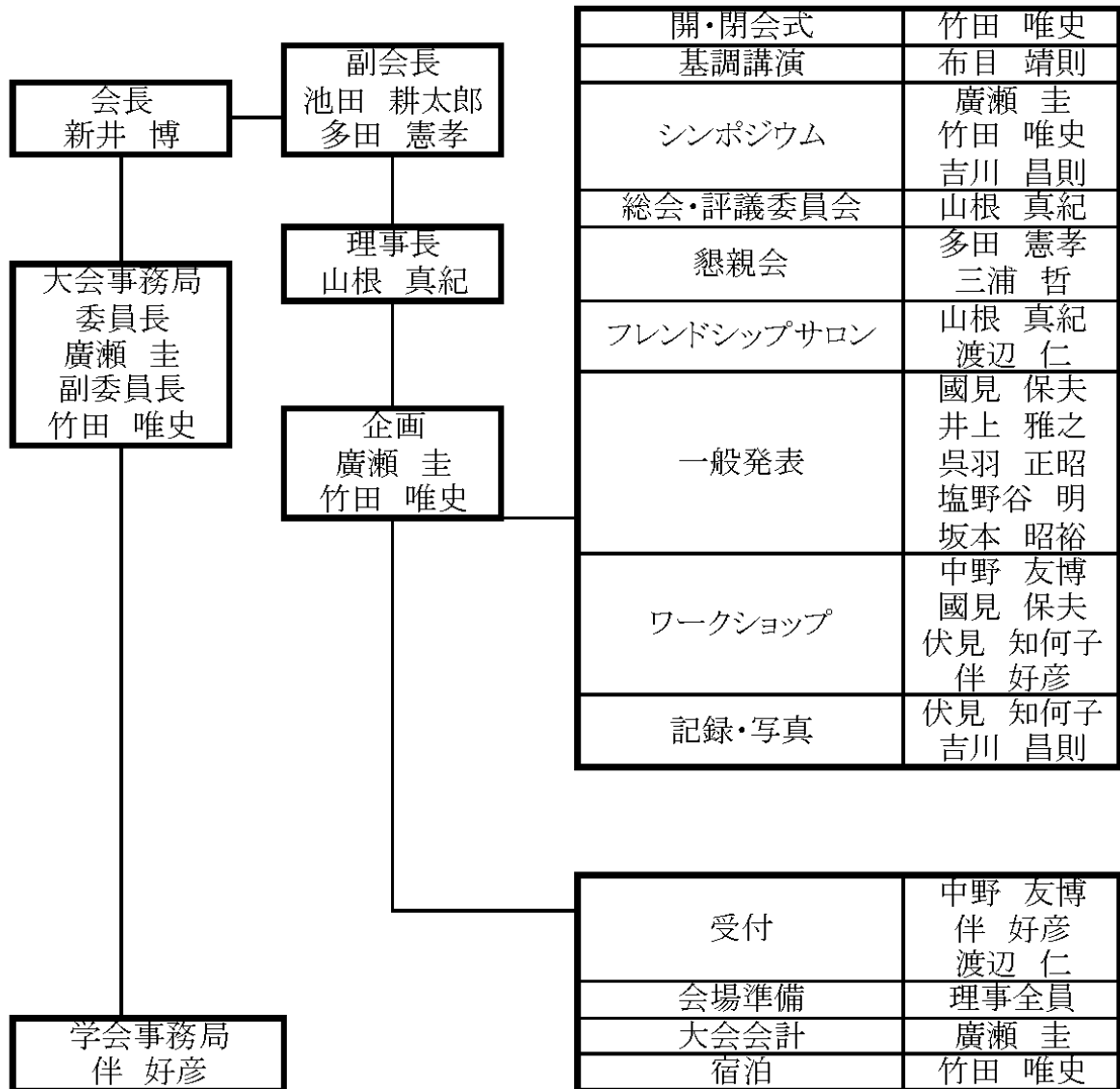
## 第3日 3月14日(火)

9:00～12:00 研究発表 I 会場:ライラック  
13:30～15:30 ワークショップ 会場:キロロリゾート  
17:00～17:45 総会 (論文賞表彰) 会場:ライラック  
20:00～21:30 フレンドシップサロン 会場:スズラン

## 第4日 3月15日(水)

9:00～12:00 研究発表 II 会場:ライラック  
12:00～12:15 閉会式 (優秀発表賞表彰) 会場:ライラック  
12:45～13:45 理事会 会場:アルパインブラッセリー

日本スキー学会 第27回大会 組織図



## 日本スキー学会第27回大会 ご案内

1. 主催：日本スキー学会 <http://www.js3.jp>
2. 日程：平成29年3月12日（日）～15日（水）
3. 会場：キロロ トリビュートポートフォリオホテル 北海道/ キロロリゾート  
<http://www.kirorohokkaido.com/>  
※学会大会へはカジュアルな服装でおいでください。
4. 大会概要  
メインテーマ： 『スノースポーツにおける科学の役割  
～科学の現場への応用について考える～』
5. 大会参加費：①正会員 5,000 円 ②賛助会員 5,000 円 ③非会員（一般） 7,000 円  
④学生会員 2,500 円 ⑤SIA 会員 5,000 円  
※基調講演、シンポジウムは、一般公開（無料）  
（ワークショップ参加者は別途リフト券代 3,500 円が必要になります）
6. 宿泊について（大会を円滑に運営するため、原則として宿泊は学会指定ホテルをご利用ください）  
○宿泊先：キロロ トリビュートポートフォリオホテル 北海道  
<http://www.kirorohokkaido.com/>  
○宿泊費：

宿泊タイプ		宿泊費（税込み）
1泊2食付き	4人部屋	¥12,000
	3人部屋	¥13,000
	2人部屋	¥14,000
	1人部屋	¥17,000

○懇親会費：5,000 円（非宿泊者は 7,500 円）

### 7. 参加申し込み

別紙「参加申込書」に必要事項をご記入の上、メールまたは FAX にて大会事務局に申し込みください。なお、参加申込書（PDF 形式、Excel 形式）は、学会ホームページからダウンロードできます。なお、メールによるお申し込みの場合は、ダウンロードした申込書を添付してください。大会参加費は、参加申し込み締切日までに指定口座にお振込み下さい。

振込指定口座 【銀行名】 秋田銀行 【支店名】 手形支店  
【口座種類】 普通 【口座番号】 1154705  
【口座名】 日本スキー学会第27回大会事務局 代表 廣瀬圭  
※振込手数料は、ご負担ください。

8. アクセス [http://www.kirorohokkaido.com/access\\_jp](http://www.kirorohokkaido.com/access_jp)

- 電車 札幌市内から有料シャトルバスで約 120 分
- 飛行機 新千歳空港から有料シャトルバスで約 120 分

9. 大会事務局

〒010-8502 秋田県秋田市手形学園町 1-1

秋田大学大学院理工学研究科廣瀬研究室内 廣瀬圭（実行委員長）

TEL : 018-889-2723（代） / FAX : 018-837-0405/ E-mail : conference27th@js3.jp

10. リフト券について

- ・リフト券は 6 時間券です（初めてゲートを通過した時から 6 時間、滑走可能です）。
- ・使用したリフト券は返却願います。紛失された場合は 500 円の補償金が必要です。
- ・11 日・12 日使用分返却：プレセミナー会場で担当者まで返却ください。  
→13 日のリフト券はその場でお渡しします。場所：プレセミナー会場（ライラック）
- ・13 日チェックインの方は、ホテルフロントで受け取りください。
- ・13 日使用分返却と 14 日のリフト券の配布：14 日、8 時 30 分～9 時  
場所：研究発表会場 受付（ライラック）
- ・14 日使用分の返却・15 日と 16 日のリフト券配布：15 日、8 時 30 分～9 時、  
場所：研究発表会場 受付（ライラック）

11. レンタルについて

- ・スキー用具、スノーボード用具をレンタルする方は、各自でお願いいたします。
- ・事前申し込みのあった方は、割引料金での対応が可能です。
- ・レンタルを利用する場合は、個人名の入った専用のリフト券が必要です。リフト券配布担当の竹田・近藤までお申しつけください。
- ・返却、紛失、破損は各自の責任でお願い申し上げます。

# 発表者の方へのご案内

## 1.発表時間

発表は全て口頭といたします。発表時間は一演題 12 分、質疑応答 3 分とします。なお、予鈴は以下のようです。

- 1 鈴…… 10 分 発表終了 2 分前
- 2 鈴……12 分、発表終了、質疑応答はじまり
- 3 鈴……15 分、質疑応答終了、発表終わり

## 2.使用機器

パソコンによる発表の方は、発表当日(朝 8 時 30 分から)またはそれ以前に、事前の試写等発表受付と準備を行ってください。事務局は、パソコン、プロジェクターを準備していますが、パソコンは各自の物をご使用ください。

パソコン以外の機器(VTR、OHP など)をご利用になる場合には、事前に事務局に連絡ください。

## 3.補足資料

発表の際に資料を配布される場合は、80 部を用意してください。また、各発表セッション前までに、発表受付に提出してください。

## 4.座長の依頼

座長は 1 セッションごとに交代します。「研究発表プログラム」にありますように、既に事務局で座長を指名させていただきます。ご協力よろしくお願いいたします。

## 5.スキー研究への投稿

スキー研究第 14 巻第 1 号への投稿にあたっては、後頁にある「「スキー研究」掲載規定」を遵守のうえご提出ください。これらが守られていない場合は、受理されないことがあります。

# プレセミナー

日時：3月12日（日）17:00-19:00

会場：ライラック

座長：池田耕太郎先生（いちほら病院）

① 「スキーによる ACL 損傷の受傷機序と最近の手術について」

NTT 東日本札幌病院 整形外科 井上雅之先生

② 「モーグルスキー選手と対象とした三次元動作解析」

北海道科学大学 理学療法学科 助教 井野 拓実先生

③ 質疑応答



<メモ>

# 基調講演

日時：3月13日（月）13:15-14:15

会場：ライラック

## スノースポーツと工学

講演者

土岐 仁(どき ひとし)

(秋田大学大学院教授・前日本スキー学会会長)



### <講演概要>

最近、「スポーツを科学する」や「スポーツの科学的分析」という言葉が一般的に聞かれるようになってきた。特にオリンピックや世界選手権が近づくと、NHKをはじめとする各テレビ局でもこれらをテーマとした番組が取り上げられるようになってきたが、その内容は人の動作解析に代表されるスポーツバイオメカニクスのものが多いようである。しかし、スポーツにおけるパフォーマンス及び安全性等の向上の観点からはものづくりにかかわることも多く、工学的なアプローチが必要となる。たとえばスポーツ用具(シューズ、ラケット、ウェア等)や、競技施設・設備(陸上競技場、プール、スケートリンク等)の改良・開発には工学が欠かせない。このように「スポーツ工学」はスポーツを行う人間とスポーツを行う環境を対象とした総合的、分野横断的な取り組みを必要とする新しい研究分野と言える。筆者の属する日本機械学会でも「スポーツ工学シンポジウム」が初めて開かれたのは1990年であり、以来活発な研究活動の結果新しい学問分野として認められ、「スポーツ工学・ヒューマンダイナミクス部門」が設置されたのは2015年である。

一般に、スポーツを解析するためには人間の姿勢情報と、その運動を行うための力学情報が必要である。スポーツの運動計測法として最も用いられているのはDLT法であろう。これは、被験者に取り付けられたマーカを複数のビデオカメラを用いて撮影し、マーカの3次元位置情報を得る方法である。しかしスキーやスノーボードは広大な雪面を高速で滑走するスポーツであり、コストや精度の面からもDLT法を適用するのは難しい。そのため雪面上を実滑走する場合の運動解析はあまり行われてこなかった。近年MEMS(Micro Electro Mechanical Systems)技術の発展により、小型で低コスト、簡易かつ運動範囲に制限を受けない計測が可能な慣性センサ(ジャイロセンサ、加速度センサ)を用いた運動計測法が提案されている。しかし、慣性センサから得られる計測情報は加速度や角速度であり、姿勢情報を直接計測することができない。ジャイロセンサから姿勢情報を算出するためには、角速度を積分演算する必要があるが、ジャイロセンサの出力に含まれるドリフ

ト誤差が蓄積し、計測時間の経過とともに精度が低下する。これを補正する方法もいくつか提案されている。一方、スノースポーツにおけるターンのメカニズム解明のためには運動力学解析が必要であり、どのような操作力を加えているのかを明らかにする必要がある。そのためには実滑走状態で雪面反力を計測するシステムが必要であり、これまで6軸力覚センサや小型3軸力センサを用いた雪面反力計測システムが開発されている。

これらスノースポーツの運動を定量的に解析するための基礎技術は工学そのものであるが、これをパフォーマンス向上に生かすための方法、例えば練習時に分析結果をリアルタイムで選手、コーチに提示できるシステム等、工学を専門としない人達が現場で使用できるよう、研究成果を具体的に還元することが求められている。そのためには工学だけでなく体育学をはじめとした他の分野との共同研究体制の構築がぜひ必要であろう。

# シンポジウム

3月13日(月) 14:30～16:30

会場：ライラック

スノースポーツにおける科学の役割  
～科学の現場への応用について考える～

シンポジスト

宮本 直人 氏

(東北大学未来科学技術共同研究センター)

中里 浩介 氏

(国立スポーツ科学センター)

近藤 亜希子 氏

(秋田大学大学院理工学研究科システムデザイン工学専攻)

コーディネーター

廣瀬 圭 氏

(秋田大学大学院理工学研究科システムデザイン工学専攻)

## シンポジスト ①

宮本 直人氏（東北大学未来科学技術共同研究センター）



### ●経歴

1977年（昭和52年）生まれ 名古屋市（愛知県）出身  
2005年 東北大学大学院工学研究科博士課程修了 博士（工学）  
2011年 東北大学未来科学技術共同研究センター准教授  
現在に至る

### ●講演の概要（高精度 GPS を使ってみよう）

GPS と聞くと『スマホの位置情報サービス』を連想する方が多いと思う。だが、それをスキー計測に使おうとする奇特な方は居るまい。なぜなら、位置精度がとんでもなく悪いからだ。一般的な GPS の精度は 30 メートル程度である。でも、俺の GPS はディファレンシャルだから問題ないぜ、と豪語される先生がもしかしたら居るかも知れない。勿論、良く出来た DGPS は 1 メートルくらい精度が出る。でもね、先生、スポーツ用に小型化した GPS はアンテナやプロセッサが貧弱で、実は 5 メートルくらいしか精度が出ないんですよ。じゃあどうすれば良いかって？よくぞ聞いてくれました。こんなこともあるかと、東北大学の技術を結集して作った携帯型キネマティック GPS は、だいたい精度 1 センチメートルまで行きます。搬送波の位相を使っているとか、EMI ノイズ対策をしているとか、GNSS だとか細かいことは言いません。使ってみてね！！



サイズ：78.5mm×38.5mm×18.5mm  
重さ：69g  
測位精度：1cm（場所や使い方による）  
バッテリー：6時間  
レート：最大 10Hz

## シンポジスト ②

中里 浩介氏 (国立スポーツ科学センター)



### ●経歴

1982年1月7日 愛知県名古屋市生まれ

中京大学 体育学部卒業

中京大学大学院 体育学専攻 博士課程前期 修了 (修士：体育学)

University of Salzburg Department of Sport Science and Kinesiology

博士課程後期修了 (博士：スポーツ科学)

### ●講演の概要(雪上での地面反力の計測)

「スキーとスキーヤーの間にどの程度の大きさの力が働いているのか、どの方向に働いているのか、どこに働いているのか？」この問いに答えるべく 1980年代から研究者たちは様々な方法と道具を用いて計測してきた。これらを正確に計測することで、ターンのメカニズムの解明、体力トレーニングの目安やターン技術向上のための情報を得ることが期待できる。また、用具開発の観点からも力の大きさや方向を知ることは重要である。動作分析と合わせることで、下肢関節に加わる力も推定できる。しかしこれまで用いられている地面反力を測定する機械(地面反力計)は、システム全体の質量が重いことやセンサーの厚さがあることで、被験者の安全を配慮すると計測可能な試技が限られてしまう。そこで今回の発表は、これまでに報告されている地面反力計を用いた研究および開発されてきた地面反力計の推移を報告し、地面反力計測の現状を紹介していきたいと考えている。

## シンポジスト ③

近藤 亜希子氏（秋田大学大学院理工学研究科）



### ●経歴

1987年 秋田県能代市生まれ

2010年 秋田大学工学資源学部機械工学科 卒業

2014年 秋田大学大学院工学資源学研究科博士後期課程 修了 博士（工学）

2014年 秋田大学理工学部システムデザイン工学科創造生産工学コース 助教  
現在に至る

### ●講演の概要（スノースポーツとセンシングの未来を考える）

スノースポーツの魅力と言え、大自然であったり、スピード感であったり、他にも数えきれないほどある。しかし、科学という側面から見ると、その魅力そのものが、スノースポーツの運動計測や解析を難しくしている。その難しい課題を解決するべく、着目されているのが「ウェアラブルセンシング」、すなわち「着用可能なセンサによる計測」である。近年は小型で新しいセンサが次々と開発されているが、それを「どう使いこなしていくか」については、まだまだ発展途上であるのが現状である。

今回のシンポジウムでは、小型センサを用いた実滑走スキーヤー・スノーボーダーの計測および解析について、工学が専門ではない方にもわかりやすく説明できればと考えている。また、現在の技術でできることと今後の課題についてまとめ、科学的技術を現場へどのように応用していくのかについては会場の皆様と議論していきたい。

# ワークショップ

3月14日(火)13:30-16:00

キロロリゾート

集合:13時20分(マウンテンセンタースキー場 出口 外)

ゲレンデへの出口を出たところで集合ください。

移動:マウンテンセンターまではホテルからシャトルバスがでております。

その他:リフト券を忘れないでください。

## 1: 「トップスキーヤー講習」

講師:輪島 千恵 氏

(キロロリゾート・元 SAJナショナルデモンストレーター)

## 2: 「ゲレンデ巡り」

講師:近藤 雄一郎 氏

(北翔大学スキー部コーチ)

## 3: 「スノーボード」

講師:伏見知何子氏

(Area51s)

## 4: 「スキーの計測体験」

講師 宮本直人氏 (東北大)

中里 浩介氏 (国立スポーツ科学センター)



# 研究発表プログラム

●●●第3日 3月14日(火) 9:00~11:45 研究発表I●●●

## 発表セッション1 【座長：渡邊 仁(筑波 大学)】

9:00~9:15	世界一流モーグル選手の第一エアの重心分析 ○三浦 哲 (新潟県健康づくり・スポーツ医科学センター)
9:15~9:30	スノーボード板にかかるモーメントに着目したオーリー動作の運動解析に関する研究 ○藤本弦 (秋田大学), 伏見知何子 (Area51s), 千葉遥, 近藤亜希子, 廣瀬圭, 土岐仁 (秋田大学)
9:30~9:45	キネマティック GPS を用いたスキーワックスの摩擦係数推定 ー ストライベック曲線の適用 ー ○宮本 直人, 森本 達郎 (東北大学), 森 敏 (東海大学), 大串 巧太郎, ボノー パトリック, 三浦 隆治, 鈴木 愛, 畠山 望, 宮本 明 (東北大学)

休憩(9:45~10:00)

## 発表セッション2 【座長 三浦 哲 (新潟県健康づくり・スポーツ医科学センター)】

10:00~10:15	長野県野沢温泉村におけるインバウンド・ツーリズムの展開にともなうスキー観光の変容 ○名倉一希(筑波大学大学院), 呉羽正昭(筑波大), 甲斐宗一郎, 小泉茜彩子, 王 汝慈(筑波大学大学院)
10:15~10:30	日中戦争期の保険院でのスキー実施 健康保険スキー指導員養成講習会並大会について ○新井 博 (びわこ成蹊スポーツ大学)
10:30~10:45	スキーリゾート・イシュグル Ischgl の発展プロセス ー オーストリアにおけるスキーリゾート発展プロセスの解明 ー ○呉羽 正昭 (筑波大)

休憩(10:45~11:00)

## 発表セッション3 【座長 井上 雅之(NTT 東日本札幌病院)】

11:00~11:15	滋賀県スキー指導員に対するスキー傷害調査 ー 最近3年間の傾向 ー ○田久保興徳(生田病院 整形外科), 橋口淳一(東近江市立能登川病院 整形外科), 喜多義邦(敦賀市立看護大学看護学部) 藤田裕(京都桂病院 整形外科), 片岡弘明, 西川淳一(にしかわ整形外科クリニック), 出雲幸美(暇生会脳神経外科病院), 木村隆(栗津診療所)
-------------	---

11:15～11:30	医学部スキー部学生のスキー関連外傷・障害の既往と安全意識調査 ○藤巻良昌(昭和大学), 福田悠甫(昭和大学), 諸星明湖(昭和大学), 鈴木洋(昭和大学), 雨宮雷太(昭和大学), 加賀谷善教(昭和大学), 稲垣 克記(昭和大学)
11:30～11:45	医学部スキー部学生のスキー関連外傷・障害の既往と安全意識調査 － 医系総合大学におけるスポーツ障害調査との比較 － ○福田悠甫(昭和大学), 藤巻良昌(昭和大学), 諸星明湖(昭和大学)鈴木洋(昭和大学), 雨宮雷太(昭和大学), 加賀谷 善教(昭和大学)稲垣 克記(昭和大学)

●●●第4日 3月15日(水)9:00～11:45 研究発表Ⅱ●●●

発表セッション4 【座長 多田 憲孝(大阪国際学)】

9:00～9:15	スキー滑走時機械力学信号とヒト生理信号の同期並列計測 －精神および技術的レーシング・パフォーマンス同定の試み－ ○木本理可(旭川高専・長岡技科大博士課程), 星野直, 高橋直也(長岡技科大), 今村啓(R.S.S), 堅物勇介(管テック), 神林勲(北海道教育大札幌校), 塩野谷明(長岡技科大・生物統合工学専攻)
9:15～9:30	アルペンスキーターンにおける高速ターン技術の実滑走計測・解析と定量的評価 －実滑走計測と加速度に着目した定量的評価－ ○吉川昌則(青森大学), 廣瀬圭, 近藤亜希子, 千葉遥, 土岐仁(秋田大学)
9:30～9:45	シート可動式チェアスキーの基盤構築 ○今村啓(R.S.S), 堅物 勇介(管テック), 木本理可(旭川高専・長岡技科大博士課程), 神林 勲(北海道教育大札幌校), 塩野谷明(長岡技科大・生物統合工学専攻)

休憩(9:45～10:00)

発表セッション5 【座長 伴 好彦(武蔵野短期大学)】

10:00～10:15	スノースポーツの楽しさに関する研究 － スキーヤーとスノーボーダーのフロー体験の比較 － ○坂谷 充, 坂本 裕昭, 大友 あかね(筑波大学)
10:15～10:30	2016 FIS World Cup (Naeba) 回転競技におけるタイム分析 － 第2シード以降の外国人選手と日本人選手の比較 － ○近藤 雄一郎(北海道大学大学院), 中里 浩介(国立スポーツ科学センター), 竹田 唯史(北翔大学)

10:30～10:45	<p>アルペンスキーワールドカップ苗場大会におけるスラローム競技のタイム分析          – 1本目 Top30 を対象として –</p> <p>○中里 浩介, 石毛 勇介, 袴田 智子, 田中 仁 (国立スポーツ科学センター), 桜井 義久(株式会社 スポーツセンシング), 三浦 哲(新潟県健康づくり・スポーツ医科学センター), 山根 真紀(日本福祉大学), 木村 健二(舞鶴工業高等専門学校), 吉田 陽平(長野市立芋井小学校), 堀田 朋基 (富山大学)</p>
-------------	--

休憩(10:45～11:00)

発表セッション 6 【座長 塩野谷 明(長岡技術科学大)】

11:00～11:15	<p>エリートモーグル選手が使うスキーについてのアマチュア同人の選好度及び購買意向に関する研究</p> <p>○金 容旭, 崔 聖洛 (漢陽大学)</p>
11:15～11:30	<p>スノースポーツ事故の判例研究①</p> <p>– スノーパークでのジャンプ対人衝突事故 –</p> <p>○武田 作郁 (中央大学)</p>
11:30～11:45	<p>マスターズスキー参加者の傷害状況</p> <p>○山根 真紀(日本福祉大学, 筑波大学大学院人間総合科学研究科), 武田 文 (筑波大学体育系)</p>

## 日本スキー学会 大会及び研究会 講演論文集原稿 執筆要領

1. 研究発表の内容:著作物は著者の原著であり,原則として未発表のものとし,研究発表及び講演論文の内容についての責任は,すべて著者が負うものとし,ます.
2. 体裁等:原稿は指定されたテンプレートを基に,ワープロ・ソフトウェア(Microsoft 社 Word 推奨) を用いて作成してください.テンプレートは日本スキー学会ホームページよりダウンロードできます.
3. 表題等:表題(必要がある場合のみ副題可),氏名,所属機関名を記し,演者氏名の前に○印をつけてください.また,キーワード(3~5 語)をつけてください.
4. 文体等:文体は「である」調とし,全角の読点(,),句点(.)を用いてください.数字は特に必要な場合を除きアラビア数字を用い,数字およびアルファベットは半角英数字で表記します.度量衡単位は SI 単位を用いてください.
5. 章節・図表等:章節項のポイントシステム,図・表,数式,引用箇所,文献等の表記は,指定されたテンプレートの書式に従ってください.また,モノクロ印刷ですので,色で分けたグラフの線や色の濃い背景等は不適當です.見やすい図表にご配慮ください.
6. 原稿枚数:2~6 頁とします.なるべく偶数頁となるようご協力ください.
7. 原稿の取り扱い:原稿は校正を行わず,そのまま印刷し講演論文集に掲載します.なお,ページ(通し番号)の記載は事務局で行います.
8. 著作権等:著作物の著作権および著作権は,日本スキー学会に帰属することを承諾した上で,投稿してください.なお,著者自身による学術教育目的等での利用については,本会の許諾を得る必要はありません.また,論文集が電子化され採録された原稿がインターネット上で公開されることについて了解しているものとし,ます.
9. 送付方法:原稿は MS-Word 形式とし,電子メールに添付して指定したアドレスへ指定した締切日までに送信してください.

以上